

尾瀬ネットワーク通信

2003年3月30日 VOL.6, No.1(15)

尾瀬自然保護指導員ネットワーク



GWの尾瀬沼と燧ヶ岳 (撮影・永島 勲)

へりポート建設計画など 02年も多難だった尾瀬

2002年の尾瀬は、長蔵小屋による廃材や空き缶などの不法投棄問題、NTTドコモの携帯電話基地局問題、そして尾瀬沼畔のへりポート建設問題、山の鼻地区の旧公衆トイレの浄化槽埋設問題などが相次ぎ、ネットワーク(NW)も抗議行動等に忙殺されました。その内容については、マスメディア等により報道されたので既にご存知と思いますが、地元三県(群馬、福島、新潟)の地方紙や全国紙の地方版、TVのローカル局による報道が中心で、全国的に情報が流れないのが残念です。

しぶとい長蔵小屋

「NW通信」の前号(02年9月22日号)にも書きましたが、全修協で案内した近畿地区の皆さま

んは、長蔵小屋問題に最初は半信半疑でした。

その長蔵小屋(平野太郎社長)と一部従業員が7月に廃棄物処理法違反容疑で書類送検され、11月11日に福島地裁会津若松支部で初公判が開かれたのですが、被告人の冒頭意見で長蔵小屋側は次のように申し立てています。

「旧別館の解体工事にともない、起訴状に記載された日時、場所において、起訴状の記載とほぼ同じ重量の『木片等』を地中に埋めたことがある。しかし、この行為が『一般廃棄物』を地中に投棄』する行為であるか否かはわからない」

「起訴状と同様の量の『圧縮された空き缶』等を利用して長蔵小屋別館出入口付近のアップロ

子の整備作業を行ったことがある」

「しかし、この行為は『会社の企業活動にもなって排出された産廃である金属くず等を地中に投棄』する行為ではない」と弁護人が三人ついでにの冒頭意見とは言え、なんと厚かましく、往生際の悪いことか。ヤナギランの丘で先祖さまたちが泣いていることでしょう。

アンテナ引つ込む

夏から秋にかけては、大清水と鳩待峠にドコモの基地局(アンテナ)が開局しました。当初の計画では、見晴と尾瀬沼にも建設するというものでもした。そこでNWも加盟している尾瀬を守る会がNTTドコモ、申請者の片品村長、環境省北関東自然保護事務所(日光事務所)などへ抗議を行い、見晴と尾瀬沼は断念させることができました。

ヘリポートの建設条件付きで容認へ

02年に環境省から計画説明を受け、抗議を行った結果、計画を縮小させることに成功、最終案の提示を待っているのが「平成15年度尾瀬沼園地整備事業」の目玉であるヘリポート建設問題です。

10月25日に晩秋の尾瀬沼畔で山小屋関係者、尾瀬を守る会の構成6保護団体、マスメディア等を招いて日光事務所の現地説明会が行われました。長蔵小屋のいわくつき旧別館跡地にヘリポートを設け、急患の搬送をはじめデジタルセンター横の公衆トイレの汚泥搬出、長蔵、尾瀬沼ヒュッテの2つの山小屋の物質輸送・廃棄物搬出を行うというもので、当初計画は次のようなものでした。
?長蔵小屋から国に返還される旧別館跡地約1800?のうち13300?をヘリポートとして利用する。
?木材を敷いて4m四方の着陸用デッキと約5

0?の荷揚げ荷下し用デッキを設ける。
?汚泥搬出や山小屋へのリヤカーによる物品運搬のため、新たに約525mの木道を整備する。
?ヘリの離着陸に支障を来す一部の樹木を伐採又は移植する。

白紙撤回求める

説明会では、尾瀬を守る会のメンバーから「不法投棄の跡地だけに緑化すべきだ」「食料はあくまでも背負って運べ」「木道を新設するな」など抗議の声が相次ぎましたが、日光事務所の反応は、「あくまでも説明会」の域を越えませんでした。守る会では、この説明を受け、ただちに東京で幹事会を開いて対策を協議。計画の「白紙撤回」を求めることを決議しました。11月8日、環境省国立公園課と日光事務所に対し、「尾瀬沼畔ヘリポート建設計画の白紙撤回要望書」を提出しました。その主な内容は、?今回のヘリ

ポート建設が尾瀬全域で前例になる恐れがある。
?ヘリ運行にあたって環境省の管理(チェック)能力には(マンパワーの面で)限界がある?VIPなどのヘリによる入山の恐れがある?などです。これに対して、日光事務所は03年1月29日に、縮小案を提示してきました。そのあらまは次のとおりです。

?2基のデッキ設置はやめ、作業用デッキ1基で緊急離着陸用を兼用させる。
?デッキの構造も緑地保護のため板敷きをやめ、グレーチング工法(鉄網敷き)とする。
?木道の総延長を当初計画より109m縮小して417mとする。
守る会はこの縮小案を受けて、条件付きで容認することを決めました。これまで尾瀬沼地域で三者がばらばらに運用していたヘリ輸送を、一ヶ所に集約して環境省の監督下に秩序をもって運用されるほうが好ましいと判

断したためです。2月14日、再要望書を提出、条件として?山小屋への空輸は週一回程度にとどめる?運用基準を公表し、運行実績を月一回公開する?資材等の搬入にあたっては、外来植物の侵入を防止する処置を義務づける?など9項目の修正案を提示しました。

意識に大きなずれ

こうした一連の抗議行動は、NW単独では残念ながら実行できないだろうと思います。抗議できるのは平日だけというのもネックになっています。同時に複数先へ抗議するときは、とくに無力感を持たざるを得ないのです。また、抗議行動中に痛感するのは、保護する側と利用する側との間に、意識の大きなずれがあることです。学者や財団関係者の一部が「利用しながら保護する」と発言するのも、その一端を物語っています。

(高橋喬)

至仏山東面登山道

実態調査に参加して

7月5、6日に行われた至仏山東面登山道実態調査に初めて参加いたしました。

当日は天候に恵まれ、かつオゼソウ、ジョウウシユウアズマギク、イカリソウ、シナノキンバイ等々多くの貴重な高山植物にも出遭えた調査山行でしたが、山頂の人混み、高天原から下の登山道の破壊(蛇紋岩塊の崩落、土壌の流失、破壊面積の拡大等)の現状を間近に見て、急傾斜地・蛇紋岩地帯の植生復元の難しさを再認識しました。

私なりに感じたままに、登山道の破壊防止や植生復元の対策を述べてみたいと思います。
東面登山道は、高天原付近から森林限界までは蛇紋岩帯の草地や灌木の中を直線的に急傾斜で結んでいる。

最初は入山者の踏圧がきつかけとなり裸地化が進み、やがて岩塊露出部や小凹部ができ、そこが流水の集積域になり、大雨の時、激流により凹部の両サイドが少しづつ崩れ、入山者の増加と相俟つて今日の荒廃状況を作つたものと思われま

す。
裸地拡大の防止：蛇籠を増やす。ササ域を拡大する。雨食・土壌の流失防止のため、植生域と裸地域の境界部にアヤマ平方式(現地で採取した種を播種、ササの移植など)を取り入れる。
登山道脇の下部がえぐられ、崩壊を起こしそうな箇所(ノツチ部)には土囊・砂囊を試験的に積んでみる。
雨天時の水流の流路を予測し、その変更あるいは分散を試みる。

入山者に対して踏み跡拡大防止の指導を徹底する。(一部にルート変更による拡大部分が見られる)

蛇籠の工夫：蛇籠はそれなりに土壌流失防止の効果が見られるが、更に蛇籠のサイズ(長さ、太さ、網目の粗さ、封入礫の大きさ)を複数用意し、固定方法と配置の仕方等を研究し土壌流失をより効果的に防ぐ工夫をする。

蛇籠はノツチ部を除いて、蛇籠の上を水が流れる程度に直径を小さくする。
蛇籠と裸地・ノツチ部の境は細礫や移植土壌などで埋める。
目の細かい蛇籠に砂利レベルの礫を入れて柵田のように配置(畦程度の低い堤防)し、少しでも平坦地を造り、雪解け水や雨水の高速流下を阻止する。
散乱する岩塊は、それによる侵食力を少なくするためには、どのような大きさの岩石を、

どのように配置するがよいのか研究する。
山体破壊を防止するため、急傾斜地において岩石崩壊の危険が予想される箇所はネットをかけ、入山者の安全にも配慮する。



(土壌が流失して地中の岩盤が露出した東面登山道 撮影 永島勲)

現在、標高1800メートル付近で行なっている植生の試験的復元作業を本格的復元作業に格上げして広範囲に実施する。
…など、破壊速度を遅

くさせるいくつかの手立りが頭をよぎりました。
と同時に毎年どのくらい裸地が拡大しているのか、どの様にして拡大しているのか、管理者がどの様な構想(注?)を持つているのか、土壌浸食のメカニズムの解明および環境工学的に破壊を止める方法がないのか、保護関係者、土木・工学技術関係者、行政担当者等で破壊防止と復元について、今後検討(注?)していく必要があるものと感じた次第です。

また、次回の調査にも是非参加したいと思いません。

(注?)尾瀬の将来構想については平成14年10月にネットワークを含む六団体で構成する「尾瀬を守る会」で提言を行ないました。

(注?)現在「至仏山保全緊急対策会議」で検討しており、平成16年度から検討結果に基づく対策が実施される予定です。

(柵橋 収)

02年群馬側活動報告

6月21?～23日?雷雨
清水博之、棚橋収、山本誠剛、坂本敏子、深山美子

21日ミーティング

?・携帯電話持ち込みに対する署名

諸般の事情により署名活動しない

?・シカ調査と尾瀬高校尾瀬ネット6名尾瀬高校側13名

22日雷雨 6時～並木駐車場でアイドリングストップ運動と尾瀬方原入山指導

9時30分から鳩待峠で入山指導後、山の鼻・牛首

山の鼻自然園で尾瀬方原の植物湿原池塘を解説。

尾瀬ロッジで大橋文江合流

23日朝8時以降小雨、帰路入山指導

9月14?～16日?晴

佐藤信良、安部晃樹、山本誠剛、坂本敏子、深山美子、長島睦世

14日ミーティング

?・尾瀬方原、至仏山登山道、アイドリングストップ運動

?・シカ調査と尾瀬高校尾瀬ネット6名尾瀬高校側4名

15日晴 6時～並木駐車場

場でアイドリングストップ運動と至仏山・尾瀬方原入山指導。8時30分から鳩待峠で入山指導後、山の鼻・牛首で植物湿原池塘浮島を解説。

16日朝8時以降本格的な雨、帰路入山指導

担当 山本誠剛

2003年度

総会開催のお知らせ

既に会員の方宛に総会の案内を発送しておりますが、03年度尾瀬ネット総会を左記の日程にて開催いたします。

日時 03年4月12日? 13時?

会場 大宮ソニックシティ 8階808会議室

本年度の主な議題は?

02年度活動報告? 03年度活動計画(案)? NPO法人化の件

また総会後に群馬県立尾瀬高等学校自然環境科

教諭松井孝夫氏の特別講演「自然環境科では何を学んでいるか(仮題)」を予定しております。

03年度活動計画(案)

来年度の現地活動日程案が幹事会にて検討されております。4月12日の総会にて承認されるまでは活動案であり、決定事項ではありませんが、本年度の現地活動の予定を立てられる方々への目安として、お知らせしておきます。

決定した日程については次号にてお知らせする予定となっております。参加希望者は03年度総会以降に、各担当幹事までお申し込みください。

会員の皆様の活動が会を支えております。本年度もご参加ください。

至仏山東面登山道調査

7月11日?、12日? 担当幹事 永島勲

福島側入山指導

5月23日?～25日? 6月13日?～15日? 7月19日?～21日? 8月8日?～10日? 9月19日?～21日? 10月11日?～13日?

担当幹事 磯部義孝 佐藤信良

群馬側入山指導

6月6日?～8日? 7月4日?～6日? 9月5日?～7日? 担当幹事 山本誠剛

野生シカ調査

7月5日?、6日? 9月6日?、7日? 担当幹事 坂本敏子

指導員養成講座

8月28日?～31日? 担当幹事 永島勲

スポーツ保険料 変更のお知らせ

尾瀬ネットの現地活動時の保険として希望者の方にご加入いただいているスポーツ保険料が2003年度より100円値上がりし、1500円となります。来年度加入を検討されている方はご注意ください。

(事務局長 椎名宏子)

尾瀬自然保護指導員ネットワークとは、既に解散した尾瀬の自然を守る会の自然保護指導員の有志が一九九七年三月に設立した「尾瀬の自然保護活動を実践」している民間のボランティア団体です。

尾瀬自然保護指導員

ネットワーク

〒100-0014

東京都千代田区永田町

二の一七の五の二〇三

(株)SEC内

電話 03-3581-0321

FAX 03-3581-2178

代表幹事 高橋 喬

事務局長 椎名 宏子

編集幹事 若松 真